

沖縄恩納村シンカレタス研修（R5，2，16～18）報告

原村農業委員会 推進委員

清水文人

農業委員として、シンカレタス栽培を実施している恩納村の研修に参加することとなり、原村においても栽培しているレタスであることから、現状を比較し参考としたい。

今回、川上村からの提案により、恩納村の遊休農地の有効活用と若者農業者の就業を目指して、川上村の支援もあり推進された。

条件として気候的に冬の気温と川上村の夏の気温が似ていることから、精選野菜の栽培を有効であると考えて進められた。また、川上村と恩納村との交流と栽培技術の研鑽の推進を農業を通して目指していると受け取れる。「シンカ（沖縄の方言で仲間）プロジェクトとして、レタスの産地化を目標とし地産地消も推進していくことを目標としている。

研修の中で野菜栽培の課題と考えられるのは、①土壌、②水、③塩害、④強風、⑤鳥害がある。

- ① 土壌は珊瑚礁の隆起した島なので、土の密度が荒く粘気がないため水持ちが悪い。
- ② 水が土壌に残らず、灌漑施設が必要になる。
- ③ 海に近いので塩害（北風）になりやすい。
- ④ 潮風（20～30m）が強くと外葉が枯死してしまう。
- ⑤ 鳥（台湾シロガシラ）による食害をと糞の付着などの害が発生。

販路確保も出荷量が安定しないことや、価格の問題等もあり、プロジェクト開始の平成28年度16名の生産者がいたが、令和4年度は2名と減少している。生産量においても

最高で57tあったが、30t程と低調である。

現状は観葉植物栽培が主流であるが、今後は生産者の増加・安定供給・販路拡大を取り組んでいくこととしているが、マンゴーと複合した生産を今後指導していく考えているようである。

直接的な問題点を記載したが、一番の問題点は役場の職員が一人で頑張っている状態で農家との対応をしており、JA農協があまり踏み込んでいない現状（専門家がない為）である。村役場・農協JAが一体となって、プロジェクトを進めていく必要がある。また、専門的な技術者の派遣が数年間は必要である。村全体が盛り上がらないと効果的な前進は望めないのではと思われる。

研修を終了して、土壌・気候の違いによる作付けの難しさを感じ以上現状を報告します。